

羽曳野市立はびきの埴生学園視察報告書

| | |
|------------|--|
| 期 日 | 令和5年1月18日（水） 13時30分～15時45分 |
| 視 察 地 | 羽曳野市立はびきの埴生学園（大阪府羽曳野市伊賀5丁目8番1号） |
| 視 察 目 的 | （仮称）笠原小中学校の開設に向け、ソフト・ハードの両面で参考とするため。 |
| 事前質問に対する回答 | <p>1 義務教育学校での主なメリットとデメリット（ソフト面とハード面それぞれ）</p> <p>（1） はびきの埴生学園について 中学校の敷地内に幼稚園、小学校が移転した経緯があり、運動会等合同で開催するなど、義務教育学校化する前から、義務教育学校に近い形で運営しているという経緯があった。</p> <p>（2） メリット 1～9年まで連続した教育を行い全教職員が全児童生徒に関わることができる。はびきの埴生学園の場合は、幼稚園を加える計12年関わることができる。</p> <p>（3） デメリット ・ 人間関係の固定化 ・ 小中両免許取得の必要 ・ 学校の統廃合に利用される可能性 ・ 行事活動等で5、6年生のリーダーシップ性を育てる機会が減少 ・ 前期段階から教科担任制を導入することによる、学級担任制のメリットが減少</p> <p>2 義務教育学校に対する地元住民や保護者からの意見聴取の方法と主な内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校説明会を2回実施。（大きな反対意見なし） ・ 保護者から運動会についての質問が多数あり。当初、別々に開催してほしいという要望が多かったが、1年生と9年生、2年生と8年生など他学年との交流種目を設けたところ、肯定的な意見が増えた。 <p>3 開校までの各種検討委員会やワーキンググループ設置の有無とスケジュール （校名・校章・校歌・制服の決定過程と、決定後に発生したトラブルがあれば）</p> <p>（1） 各種委員会等の設置及びスケジュール</p> <ol style="list-style-type: none"> ①平成27年度 義務教育学校化することを立案 ②平成28年度 義務教育学校準備委員会、小中合同職員会議を発足。 ③平成29年度 校名及び校章選定委員会発足 ④平成30年度 校歌作成委員会発足（開校後） <p>（2） 校名について 学校名（案）をいくつか選出。各団体から意見を集約し、候補に順位をつけて決定。（旧学校名：埴生小学校、羽曳野中学校）</p> |

| | |
|------------|---|
| 事前質問に対する回答 | <p>(3) 校章について 学校長の専決事項。生徒から原案を募集した。</p> <p>(4) 校歌について 児童生徒から小学校、中学校それぞれの校歌の歌詞で残したいと思う部分をアンケートにて調査。アンケート結果をもとに、2名の音楽教諭が作曲し、1番は「歴史」、2番は「未来」をイメージした校歌が完成（H30.9月）。その後、校長が作詞し計3ヶ月程度で完成。</p> <p>(5) 制服について 元々、小学校から制服を着用していた。中学校は詰襟、セーラー服。私服案も検討したが、児童生徒より制服を推す声もあったため、前期課程、後期課程ともにブレザータイプの制服を着用することとした。 義務教育学校開校後も旧制服を使用可とし、新制服は入学や買い替えのタイミングで徐々に移行している。</p> <p>4 開校までの小・中学校間でのすり合わせ状況（ソフト面とハード面それぞれ） ・小中合同職員会議を計11回実施。</p> <p>5 プール・体育館・特別教室等、使用が集中する施設運営の方法</p> <p>(1) プールについて 開校までに間に合わなかったため、移転前の小学校敷地内にあるプールを使用（現在は市民プールとなっている）。低学年用の深さのプールはない。</p> <p>(2) 体育館について 体育館は中学校の体育間をメイン使用。中学校の講堂を第2体育館として現在改修中。</p> <p>(3) 特別教室について 特別教室は前期課程・後期課程それぞれ設置。使用頻度の観点からすると、1つにまとめることも考えられたが、机の高さが違うためそれぞれ設置した。</p> <p>6 学年段階の区切りの設定状況（開校後の変更の有無、成果と課題） 4－3－2制で、最後の2年は社会（高校や専門学校への進学、就職等）へ出ていくための準備期間と考えている。区切りの設定は本当に難しく、4-3-2の体制が最適であるかは現在も検討中。 また、小、中という区切りをなくしたことにより中1ギャップは改善されつつあるが、100%改善には至っていないため、今後の検討課題としている。</p> <p>7 教員の配置や特色あるカリキュラム編成（学級担任と教科担任）</p> <p>(1) 前期課程は担任制、後期課程は教科担任制としているが、前期課程の教員及び児童生徒と後期課程の教員及び児童生徒が、相互に交流できる環境ができている。</p> <p>(2) 前期課程は45分授業・15分休憩、後期課程は50分授業・10分休憩と、共通の1時間サイクルとしている。授業の終了時間は5分ずれるため、終わりのチャイムのみ廃止。大きなトラブル等、不都合はない。</p> |
|------------|---|

| | |
|-------------------|---|
| <p>事前質問に対する回答</p> | <p>(3) 校区外からの通学も可(小規模特認校、全体の約1割)</p> <p>8 入学式、卒業式、前期・後期課程修了式、運動会、文化祭、宿泊研修等の学校行事の状況</p> <p>(1) 前期課程、後期課程の9年間として考えているため、1年生時の入学式と9年生時の卒業式としているが、前期課程から後期課程の区切りとして6年生の終わりに6年修了式、7年生の初めに進級式を行っている。</p> <p>(2) 校外学習について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5年生 臨海合宿(一泊二日) ・6年生 修学旅行(一泊二日) ・7年生 林間学習(日帰り) ・8年生 宿泊学習(一泊二日) ・9年生 修学旅行(二泊三日) <p>9 P T A・学園生会の構成や運営方法</p> <p>全校児童生徒が集う「学園集会」、前期課程(児童)による「児童集会」、後期課程(生徒)による「生徒集会」と3つに編成。</p> <p>10 クラブ活動や部活動の構成や運営方法</p> <p>5年生から後期課程生徒と共に部活動に参加可。初年度から約35%の前期課程の児童が部活動に加入し、現在の前期課程の児童の参加率は63.4%。 ※公式大会は中学生の部活動であるため、前期課程の児童は出場不可。</p> <p>11 管理職の構成(提案・検討・決定の方法)や校内組織(企画・指導部会等)の状況</p> <p>校長1名、副校長1名・教頭、養護教諭、事務は前期課程と後期課程で各1人ずつ。図書司書は1人で常勤勤務(会計年度任用職員)し、前期課程、後期課程とも管理している。</p> <p>小学校と中学校が義務教育学校になった後、職員同士が協力できているのは、職員室がひとつで、お互いの状況が常に情報として入ってくる、いつでも話ができる点が大きいと感じている。</p> <p>12 他校との転入・転出で発生したトラブル</p> <p>特になし</p> <p>13 日課、年間指導計画における配慮事項</p> <p>(1) 授業の終わりのチャイムについては廃止</p> <p>(2) 他学年のフロアには行かないようにルール化。移動教室についてもルートを定めている。(1F:1~3年生、2F:4~6年生、3F:7~9年生)</p> |
|-------------------|---|

質疑応答

- 1 笠原の仮設校舎での2年間開校までにやるべきことは？
 - ・小中お互いが関わっていき、教員同士が仲良くなっておくことが大事
- 2 地域連携について
 - ・特に問題なし。現在も同様。
- 3 学童保育について義務教育学校になって問題等あるか
 - ・特に問題はなし。現在も同様。
 - ・グラウンド使用の際は部活動に迷惑にならないように、グラウンドを通ったり、遊んだりと気を使わせている部分はある。
- 4 ハード面について
 - ・与えられた環境でリーズナブルに試行錯誤して行った。
 - ・大きなオープンスペースがあるとよい。
 - ・雨漏りがひどいので、古い校舎をそのまま使用している弊害が出ている。
- 5 児童生徒にとっての呼称はどちらが浸透しているか？（前期課程、後期課程と7～9年生）
 - ・どちらも浸透している。場面によって使い分けている。
- 6 特別活動の開催方法は合同か別々どちらか？
 - ・別々の活動が多いが、あいさつ活動は合同実施。学園集会の司会は児童会、生徒会から1人ずつとしている。6年生のリーダーシップを伸ばすため児童会を存続させた点はよかった。
- 7 指導要領は小・中分けているか
 - ・義務教育学校使用を使っている
- 8 通知表は5、6、7年生（4-3-2の3にあたる部分）は前期課程、後期課程どちらに切り分けしているか。
 - ・5、6年生は小学校、7年生は中学校という切り分けとしている。
- 9 中1ギャップについて7年生になった際、旧担任（6年時の担任）に相談できる環境はあるか。
 - ・相談できる環境は整っている。後期課程の担任が前期課程の担任に相談する機会も多い。これも職員室が一緒のため、交流する場が持て相談もしやすい環境にある。
 - ・テストについては小学生は100点を目指すテスト、中学生は平均点以上を目標とするテストのため児童生徒がギャップを感じる部分がある。それを少しでも解消するために、後期課程の先生に前期課程の定期テストを作成してもらい、その後のフォローを前期課程の担任がするというシステムを設けている。

| | | |
|-----------------------|--|--|
| | <p>10 授業時間のズレ（45分授業・15分休憩と50分授業・10分休憩）で生まれる問題点は？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特に問題なし。フロアが別のため影響が少ない。定期テストの際に、前期課程の児童生徒に騒がしくしないようになど、先生に協力をお願いする程度。 <p>11 前期課程と後期課程の教員の意思統一のための会議等の開催方法は？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体で会議を行った後、前期課程、後期課程と別れて会議を行っている。 ・4-3-2の切り分けでの会議は行っていない <p>12 開校5年目にして現在の一番の課題は？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中ギャップ。義務教育学校になる前から運動会等、合同で行事を行っていたが、義務教育学校となり生活を共にすると当初は、児童生徒だけではなく、大人も保護者対応や生活感の違いなど違和感を感じる人が多い。 | |
| <p>授業・校内 施設見学</p> | <p>1. 廊下</p>  <p>廊下の幅は3.3メートル</p> | <p>2. 昇降口</p>  <p>階段の高さは小学生仕様（17センチ） 校内統一</p> |
| <p>授業・校内 施設見学</p> | <p>3. 特別支援教室</p>  <p>カーテンを開けると2つの部屋を1つの部屋として広く使うことが可能</p> | <p>4. 体育館（外からの様子）</p>  <p>1階は部室として外から出入りが可能</p> |

5. 図書室（後期課程）



前期課程・後期課程別々に図書室を設けている

6. 学校風景



7. グラウンド



8. 遊具

